

2019年度 第2回 7月 難関大本番レベル記述模試

日本史B・採点基準

記述・記号部分

◆共通の原則◆

1. 漢字で書くべき用語（語句）のひらがな表記には得点を与えない。また、ひらがなで書くべき用語（語句）の漢字・カタカナ表記にも得点を与えない。
2. 判読しにくい文字についてはできるかぎり善意に解釈して採点する。
3. 部分点は設けない。
4. 「漢字○字で」と指示した設問に対して『』を加えて字数を一致させた答案を示した場合、『』は漢字ではないなどの理由から不正解とする。
事例) 「漢字5字で」… ○建武年間記 ×『建武記』

1 原始・古代の衣服（2点×10=10点）

2 中世の史料（2点×10=20点）

3 勘定所と勘定奉行（2点×10=20点）

4 近代の三井（2点×10=20点）

5 昭和・平成期の国際環境と日米関係（2点×10=20点）

*注意事項・許容解など

特になし。

論述部分

◆論述問題・共通の基準◆

1. 採点基準においては加点要素を、**3点**のものは太字・アミカケ□□で、**2点**のものは二重線□□で、**1点**のものは下線□□で、それぞれ示している。採点に際しては常に前後の文脈に留意する（◎で示した事項、（ ）内に示した事項に内容が反していないかを確認する。例外的対応などについては※で示してある）。加点要素の要件を一部しか満たしていない箇所については、それぞれの配点未満の得点を与える。
2. **歴史用語**（赤字で表示）についての誤字、漢字で記すべき語句のひらがな・カタカナ表記は、それが加点要素に直接関係する場合、1文字につき**1点減点**とするが、**脱字**、**当て字のある歴史用語の表記は、非加点**。同一語句・文字がくりかえし誤っている場合は、それぞれを減点の対象とするのではなく、まとめて**1点減点**とする。加点要素とは直接関係しない箇所に誤字があった場合、減点しない。
3. 設問によっては加点要素の合計が配点を超えている場合がある。ただし、各問とも配点を満点としてこれを超える得点は与えない。

3 勘定所と勘定奉行（論述部分）

問5

◆加点要素の合計6点→6点満点◆

◎近代の改元

- a 一世一元の制にもとづく …… 2点以内
- b 天皇の交代時におこなう …… 1点以内

※「天皇が退位した時におこなう」など新天皇の存在に言及していない表現は非加点

◎前近代の改元

- c 災害〔災異〕にともない行うことがあった …… 1点以内
- d 明暦の大火〔振袖火事〕にともない行ったことがある …… 2点以内

問7

◆加点要素の合計4点→4点満点◆

◎享保の改革で採用された制度

- a 足高の制 …… 2点以内
- b 在職中は役高に対する不足分を補う …… 1点以内
- ※「役高に対する不足分を補う」は非加点
- c 支出の抑制をめざした …… 1点以内